

科目	芸術論(リハ)	担当	森川 孝典	履修学年	1年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

あらゆる社会に芸術があり、またあらゆる時代に芸術はある。前半の3分の1の講義ではいろいろな地域、時代の芸術を取り上げる。後半の3分の2は20世紀に絞り、20世紀の前半と後半の主としてヨーロッパの芸術とヨーロッパの芸術の影響著しいアジア、アフリカの芸術を問題とする。ジャンルとして美術、建築、音楽、演劇、文芸など多岐に亘りできるだけ幅広い分野から講義をする予定。この授業によって受講者が現代や西欧やあるいは代表的な芸術だけでなく、あらゆる芸術に目を見開ききっかけとなれば幸いである。

【履修注意】

授業は毎回出席が原則である。出席を励行すること(規定通り3分の2以上の出席を必要とし、例外を認めない)、遅刻をしないこと、死語は慎むこと、パソコンや携帯を開くことは厳禁とする。

【評価方法】

定期試験、小テスト、レポートを総合して評価する。

【試験について】

定期試験を実施する。

再試験対象者の条件： 定期試験までの獲得点数が40点以上あること

【予習・復習】

学修時間は1単位45分が文部科学省指針です。1単位科目は90分の講義に対して45分、2単位科目は90分の講義に対して90分の自宅学習(予習、復習)が必要です。

【教科書】

購入教科書なし。プリントを配布する

【参考書】

適宜紹介する。

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	芸術入門	子守唄、労働歌、花火、イスラム
2	中国の詩、音楽	杜甫と李白、戯曲、京劇
3	日本の名所絵、風景画	東海道、葛飾北斎、ジャポニスム
4	西洋中世の美術	教会の絵画、パトロン、注文
5	東南アジアの音楽	ガムラン、竹の楽器、ドローン
6	ピカソ	青の時代、ゲルニカ、キュビズム
7	サティの音楽	小作品、ワーグナー、フランス
8	中間まとめ	1～7講のまとめ
9	モダニズム建築	ル・コルビュジエ、近代建築の5原則、風土と家屋
10	映画の登場	サイレント、トーキー、素人俳優
11	ジャズ	黒人、ニューオーリンズ、ショスタコーヴィチ
12	戦後のアメリカの音楽状況、ロック	プレスリー、ビートルズ、ボブ・ディラン
13	戦後のアジアの音楽状況	米軍ネットワーク、韓国、トルコ
14	韓国の近代詩	高度成長、南北分断、金芝河
15	トルコの現代音楽	西ドイツ移民、伝統回帰、タルカン
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ